柏原市遺跡群発掘調査概報

１９９８年度

１９９９年3月

柏原市教育委員会

例言

1．本書は、柏原市教育委員会が平成10年度に原因者負担事業として実施した、発掘調査概要報告書である。

2．本書には平成10年４月１日から12月29日までに着手した調査について掲載した。

3．調査は柏原市教育委員会社会教育課　石田成年が担当した。

4．調査及び報告書作成に際し、次記の諸氏の参加、協力があった。（順不同・敬称略）

奥野　清　　分才隆司　　阪口文子　　槇原美智子　　有江マスミ　　橋口紀子

松本和子　　乃一敏恵　　山本允子　　村口ゆき子　　尾野絹江　　富田都子

目次

本郷遺跡 …… 1

山ノ井遺跡 …… 1

平野廃寺 …… 1

大県遺跡 …… 2

大県南廃寺 …… 7

安堂遺跡 …… 7

平尾山古墳群 …… 9

高井田横穴群 …… 10

玉手山遺跡 …… 10

図１　柏原市位置図

本郷遺跡

98－３次調査

柏原市本郷4-253-1他における宅地造成に伴う調査である。６月１日に着手、６月９日に終了した。調査対象面積は1,605.05㎡で、依頼者提供の重機により、対象地の東西両端を合計10.0㎡掘削した。大和川の洪水により運ばれたと思われる砂と粘土の堆積のみで、遺構、遺物とも認められなかった。

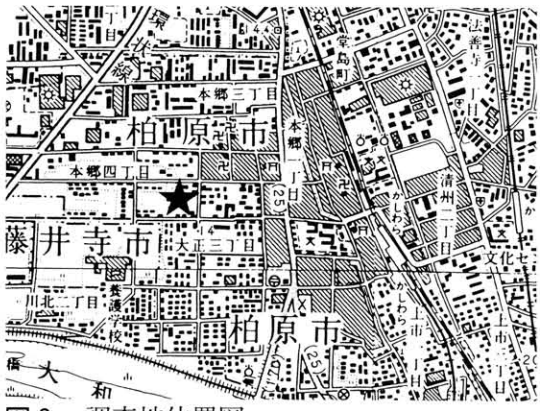

図２　調査地位置図

山ノ井遺跡

98－１次調査

柏原市山ノ井町698-1、698-2における宅地造成に伴う調査である。８月26日に着手、即日終了した。調査対象面積は391.41㎡で、依頼者提供の重機により、対象地の西辺中央を0.6㎡、現地表下100㎝まで掘削した。盛土のみで遺構、遺物とも認められなかった。

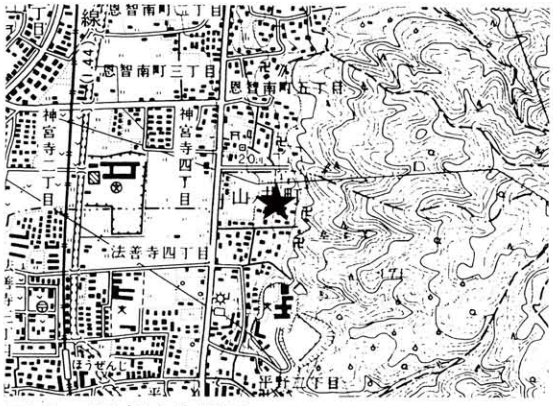

図３　調査地位置図

写真１　山ノ井98－１掘削状況（南から）

写真２　平野廃寺98－１掘削状況（北から）

平野廃寺

98－１次調査

柏原市平野2-383における倉庫建築に伴う調査で、７月９日に着手、即日終了した。調査対象面積は1,127.77㎡で、依頼者提供の重機により、対象地の南端を0.5㎡、現地表下100㎝まで掘削した。砂の堆積のみで遺構、遺物とも認められなかった。

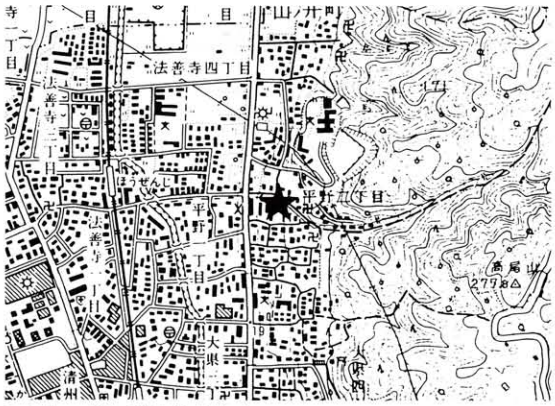

図４　調査地位置図

大県遺跡

98－３次調査

柏原市大県4-196-3、197における宅地造成に伴う調査である。５月22日に着手、即日終了した。調査対象面積は487.42㎡で、依頼者提供の重機により、対象地中央を3.9㎡、現地表下60㎝まで掘削した。既設建物の造成に伴う土砂の堆積のみで遺構、遺物とも認められなかった。

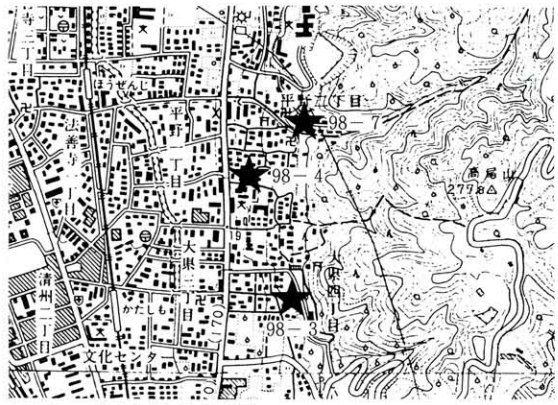

図５　調査地位置図

写真３　大県98－３近景（東北から）

写真４　同掘削状況（西北から）

98－４次調査

柏原市平野2-171-1の一部における共同住宅建築に伴う調査である。７月13日に着手、即日終了した。調査対象面積は361.85㎡で、依頼者提供の重機により、対象地西端を2.4㎡、現地表下150㎝まで掘削した。遺構、遺物とも認められなかった。

写真５　大県98－４近景（北から）

写真６　同掘削状況（南から）

98－７次調査

柏原市平野2-369-3他における宅地造成に伴う調査である。調査対象面積は1,461.00㎡。依頼者から作業員の提供を受け、10月７日に着手した。遺跡地図上では対象地の遺跡名は「大県遺跡」であるが、調査の対象となったのは「平尾山古墳群平野大県第６支群１号墳、同２号墳」（大阪府教育委員会『平尾山古墳群分布調査概要』1975）である。周辺地が宅地開発されていく中で、緑地として残されてきた急峻な南向きの斜面上にある。１号墳が西にあり、２号墳は東に15ｍ隔たる。

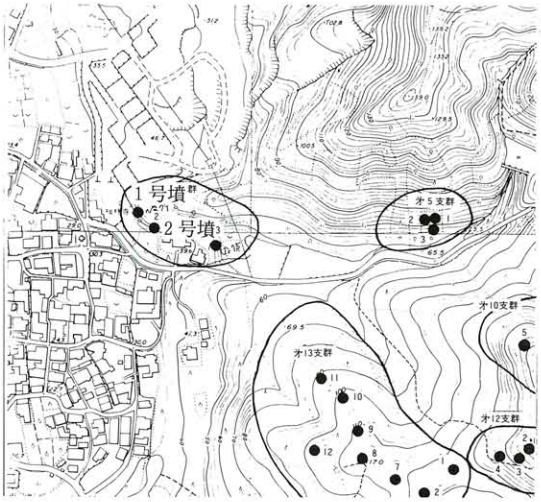

写真7　大県98－7近景（東南から）

図6　古墳分布図（府報告に加筆）

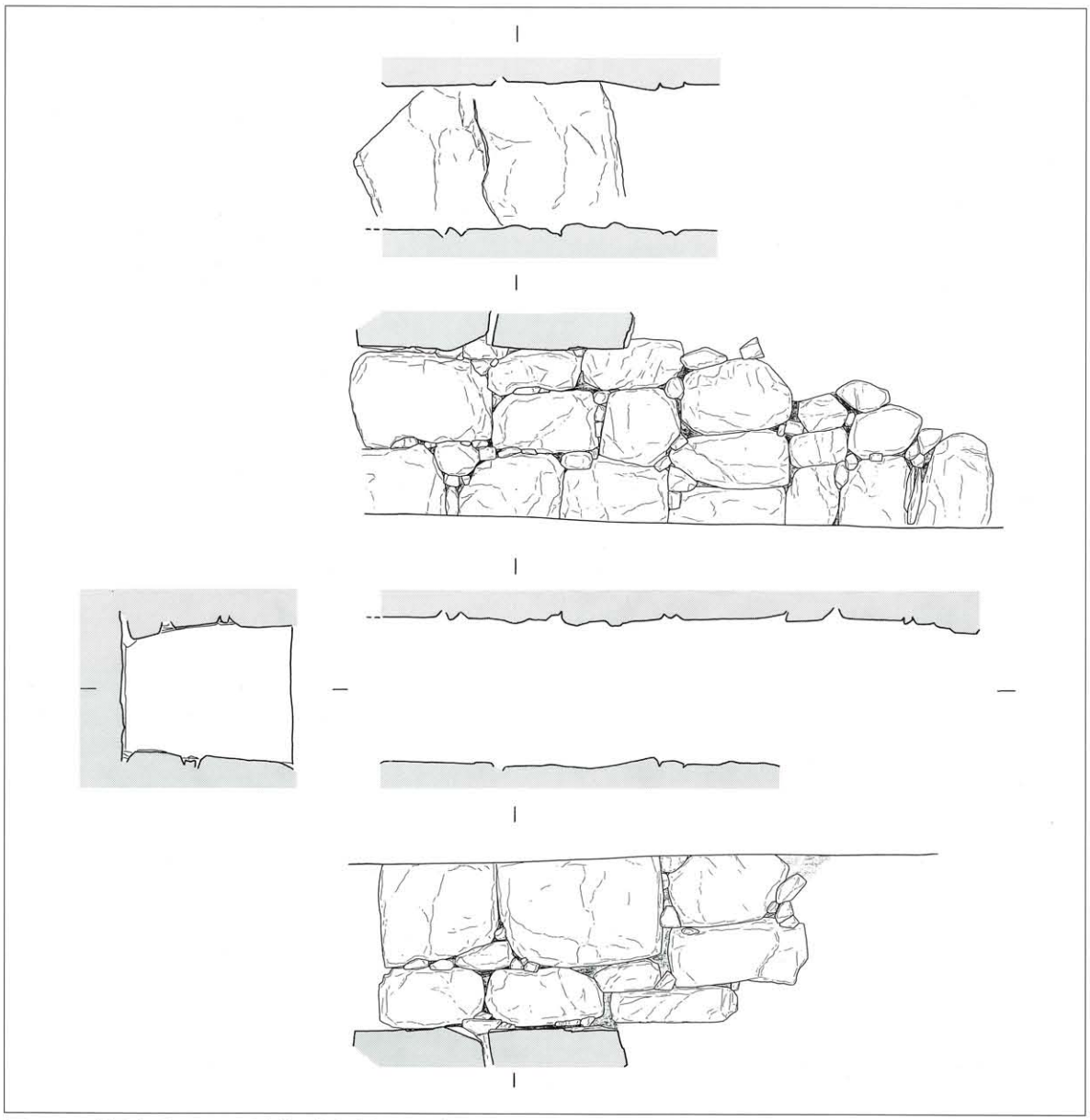

図7　平野大県6－1号墳石室実測図（S＝1／80）

１号墳は無袖の横穴式石室で、石室長700㎝以上、幅170㎝、高さ200㎝を測る。主軸は磁北から西に約３°振っている。奥壁は調査着手時にはすでに無く、側壁の一部や天井石と同様に、盗掘か採石に伴い撤去されたようである。厚さ約80㎝の石室埋土には、石棺材として使用されていたと思われる石材が細かく砕かれて混在していた。

写真８　平野大県６－１号墳石室（南から）

写真９　同東壁

出土した須恵器は25個体で、ほとんどが奥壁から約400㎝の西壁に接する箇所に集中していた。埋葬に伴って置かれた様子ではなく、片付けられ無造作にかためられているかのような状態であった。有蓋高坏10個体、セットとなる蓋６点、器台１点、長頸壺１点、他である。石棺片はコンテナ２箱分を採取した。二上山西麓産の凝灰岩以外に白色あるいは緑灰色を呈する「高室石」を多く含む。部材には組合式石棺を想起させる細工が施されている。

写真10　６－１号墳遺物出土状況（南から）

遺物は鋭意整理中であり、詳細については機を改めて別途報告する。なお調査中に1号墳出土須恵器高坏の坏部１点を盗難で失った。

２号墳は石室長200㎝以上、幅240㎝、高さ270㎝を測る。主軸は磁北から西に約34°振っている。石室内部は中近世に数度盗掘を受けているのか、当該期の土器陶磁器類が石室埋土に混在し、床面近くでは火を使用した状況も看取された。近現代には石室を構成する石材の採取も行われたようで、１石のみ遺る天井石には矢痕が見られる。埋土の厚さは約160㎝で、上半には遺物を全く含まない。

写真11　平野大県６－２号墳石室（南から）

出土遺物として須恵器、瓦器、石棺石材、銭貨（天聖元宝）がある。須恵器は短脚高坏、広口壺で、石棺片は砕かれた状態で埋土に混じっていた。縄掛突起状の細工を施した部材もある。

調査中の11月９日に現地に赴くとすでに古墳が２基とも撤去されており、墳形、規模等の詳細な情報を得られなかった。特に２号墳については埋土掘削途上でもあり、石室構造、床面状況等、詳細は不明である。

１号墳、２号墳で出土した、石棺材と思われる石材石種の観察を八尾市立曙川小学校教諭奥田尚氏に依頼し、所見を玉稿として賜った。記して謝意を表します。

「平尾山古墳群平野大県第６支群１号墳、同２号墳出土石棺材の石種」　　奥田尚

平尾山古墳群平野大県第６支群１号墳、同２号墳から出土した石棺材の破片を肉眼で観察した。１号墳から出土した石棺材の石種は、石英安山岩質凝灰岩、石英安山岩質溶結凝灰岩、流紋岩質凝灰角礫岩Ａであり、２号墳から出土した石棺材の石種は、石英安山岩質火山礫凝灰岩Ｂ、流紋岩質凝灰角礫岩Ｂである。これら石種の特徴とその採取推定地について述べる。

・石種の特徴と採取地について

石英安山岩質凝灰岩：色は淡灰色で、層理面がある。層理面に沿って割れている。構成粒は、火山ガラス、石英、長石、輝石である。火山ガラスは無色透明、粒形が束状、貝殻状、フジツボ状で、粒径が0.3～0.7㎜、量が中である。ガラス質部が溶けて、形のみが残る。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.2～0.3㎜、量が多い。稀に、灰色透明の石英が見られる。灰色透明の石英は、粒状で、粒形が角、粒径が0.2～0.3㎜である。長石は無色透明、粒形が角、粒径が0.2～0.3㎜、量が多い。輝石は黒色透明、粒形が角、粒径が0.2～0.3㎜、量がごくごく僅かである。基質は灰白色透明で、孔が多い。

このような岩相を示す岩石は、加西市高室付近に分布する流紋岩質溶結凝灰岩の岩相の一部に似ている。石材名としては高室石の範疇に含まれる。

石英安山岩質溶結凝灰岩：色は青灰色である。裸眼では認められにくいが顕著な溶結を示す。構成粒は、火山ガラス、石英、長石、黒雲母、輝石である。砕けているものが多い。火山ガラスは、粒形が束状、貝殻状、球状で、粒径が0.3～0.5㎜、量が多い。ガラス質部が溶けて、形のみが残る。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.2～0.3㎜、量がごく僅かである。複六角錐をなす石英が見られる。長石は無色透明、灰白色透明、粒形が角、粒径が0.3～0.7㎜、量が僅かである。短柱状で自形をなすものが多い。黒雲母は黒色、粒形が角で、粒径が0.3～0.4㎜、量がごくごく僅かである。輝石は黒色透明、短柱状で、粒形が、亜角、粒径が0.2～0.3㎜、量がごくごく僅かである。ごく稀に、１㎜に達するものがある。基質は青白色、ガラス質である。

このような岩相を示す岩石は、加西市高室付近に分布する流紋岩質溶結凝灰岩の岩相の一部に酷似する。石材名としては高室石の範疇に含まれる。

流紋岩質凝灰角礫岩Ａ：色は灰白色で、黒色と白色の粒が点在する。構成礫種は流紋岩、流紋岩質溶結凝灰岩、軽石である。流紋岩は灰色、粒形が亜角、粒径が７㎜である。石基がガラス質である。流紋岩質溶結凝灰岩は黒色、粒形が亜角、粒径が２～15㎜、量が多い。稀に、粒径が８㎝に及

ぶものもある。軽石は黄灰白色、粒形が亜円、円で、粒径が２～30㎜、量が多い。稀に、粒径が７㎝に及ぶものもある。基質は黄灰白色で、緻密である。

このような岩相を示す岩石は、二上山西麓に分布する二上層群下部ドンズルボー層の溶結していない岩相の一部に酷似する。採石場所としては南河内郡太子町牡丹洞の東方付近が推定される。

石英安山岩質火山礫凝灰岩：色は灰色で、亜円～円礫の軽石の塊である。軽石は、黄灰白色と灰色のものがある。黄灰白色の軽石は、粒形が円、粒径が１～20㎜、量が非常に多い。この軽石には、稀に、粒径が0.5㎜程度の輝石の斑晶がごくごく僅かに認められる。灰色の軽石は、粒形が亜円、粒径が２～15㎜、量がごく僅かである。粒状をなす黒色の物質は、粒径が２～３㎜、量が僅かである。基質は灰色で、緻密である。

スコリアの塊のようであり、火山噴出物の下部によくみられる石である。このような岩相を示す岩石は加西市から高砂市にかけて分布する石英安山岩質溶結凝灰岩の最下部の岩相の一部に見られると推定される。同質の岩石が分布する場所を確認するに至っていない。

流紋岩質凝灰角礫岩Ｂ：色は灰白色で、黒色と白色の粒が点在する。構成礫種は流紋岩質溶結凝灰岩、軽石である。流紋岩質溶結凝灰岩は黒色と茶褐色のものとがある。黒色の流紋岩質溶結凝灰岩は、粒形が角、亜角、粒径が３～20㎜、量が多い。茶褐色の流紋岩質溶結凝灰岩は、粒形が亜円、粒径が40～45㎜、量がごくごく僅かである。軽石は白色、粒形が亜角、粒径が３～15㎜、量が中である。基質は灰白色、緻密である。

このような岩相を示す岩石は、二上山西麓に分布する二上層群下部ドンズルボー層の溶結していない岩相の一部に酷似する。採石場所としては、黄褐色の流紋岩質溶結凝灰岩の礫が含まれることから、南河内郡太子町鹿谷寺跡の北方付近が推定される。

・高室石の石棺について

高室石を使用している石棺についての研究はあまり進んでいないと言えよう。播磨系石棺材としては、伊保山付近の龍山石、池付近の龍山石、加西市の長石、同市の高室石がある。高室石の使用は、加西市の玉丘古墳の長持形石棺に始まると言える。河内、大和、山城に於いても、高室石を使用している石棺は若干の古墳に見られる。河内では、八尾市神立にある芝塚古墳の奥棺、愛宕塚古墳出土の石棺片、柏原市山ノ井瑠璃光寺の石棺仏である。大和では平群町西宮の烏土塚古墳前棺である。山城では向日市の物集女車塚古墳棺がある。ここに挙げた石棺は全て組合式家形石棺である。石棺の使用傾向がわかる棺で判断すれば、芝塚古墳奥棺は石棺材の全てが高室石である。物集女車塚古墳棺は高室石と牡丹洞東方付近の石が使用されている。ここに挙げた古墳は独立墳であり、比較的規模が大きな古墳である。今回の調査で、群集墳にも使用されていたことが明らかになったと言える。

大県南廃寺

98－１次調査

柏原市大県4-616-1の一部における分譲住宅建築に伴う調査である。６月16日に着手、即日終了した。調査対象面積は287.52㎡で、依頼者提供の重機により、対象地の西端を4.0㎡、現地表下130㎝まで掘削した。遺物として数点の土器片が出土した。遺構は認められなかった。

図８　調査地位置図

写真12　大県南廃寺98－１近景（南から）

写真13　同掘削状況（北から）

安堂遺跡

98－１次調査

柏原市安堂町658-4における共同住宅建築に伴う調査である。調査対象面積は495.00㎡。まず試掘調査を５月19日に着手、５月21日に終了した。その結果、現地表下40～80㎝で遺物包含層や柱跡を検出したことから、建築箇所について発掘調査を実施することとした。依頼者から重機と作業員の提供を受け、８月３日に着手、８月12日に終了した。調査面積は162.5㎡。

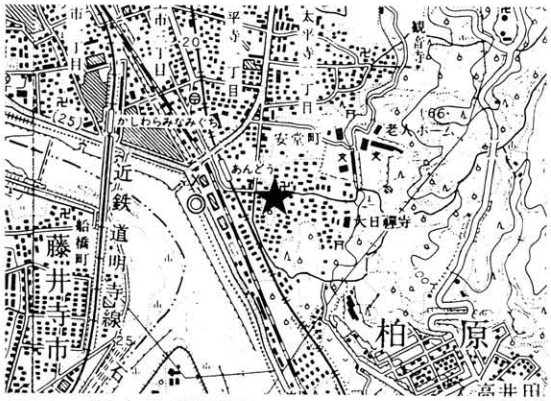

図９　調査地位置図

遺構として弥生時代の溝、奈良時代の柱跡等を検出した。遺物は弥生時代、古墳時代の土器類、奈良時代の瓦等がコンテナ５箱分出土した。現在整理中であり、詳細については機を改めて別途報告する。

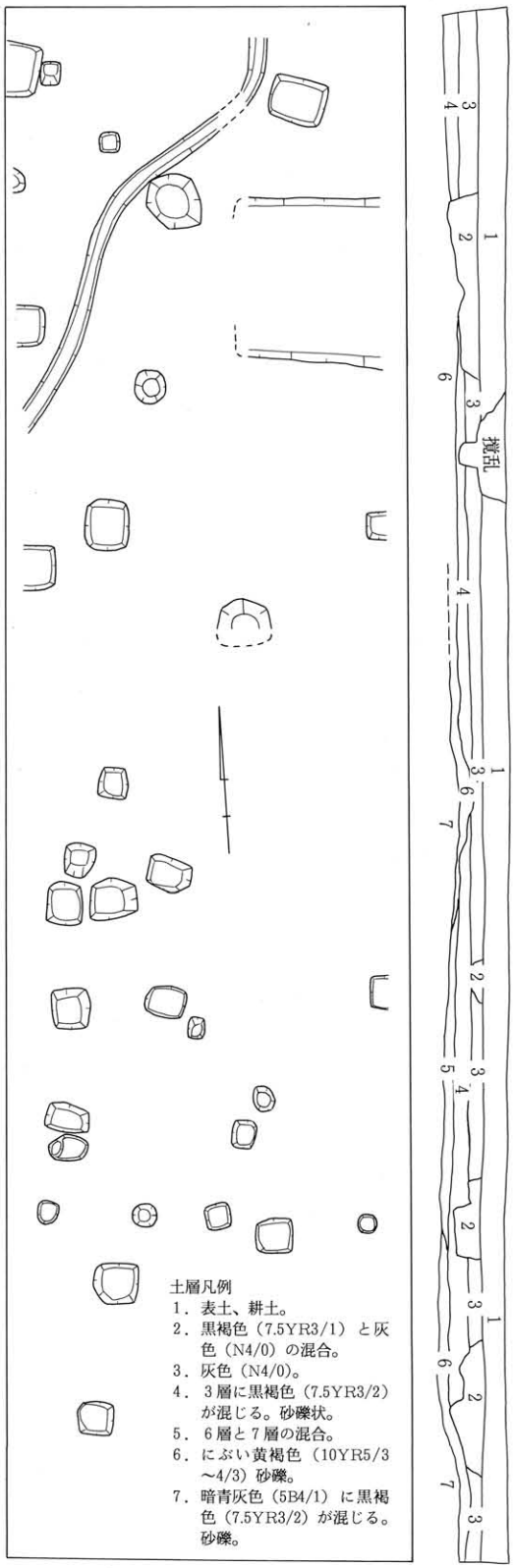

図10　平面図、東壁断面図

写真14　安堂98－1北半遺構（南から）

写真15　北半作業風景（南から）

写真16　南半遺構（東北から）

写真17　南半作業風景（南から）

平尾山古墳群

98－3次調査

柏原市峠987における通信柱設置に伴う調査である。8月7日に着手、即日終了した。調査対象面積は40.80㎡で、依頼者提供の重機により、対象地の中央を0.5㎡、現地表下80㎝まで掘削した。約70㎝で花崗岩質の地山に達する。遺構、遺物とも認められなかった。

図11　調査地位置図

写真18　平尾山古墳群98－3近景（東南から）

写真19　同掘削状況（南から）

98－4次調査

柏原市雁多尾畑6340-6他における鉄塔建設に伴う調査である。12月7日に着手し、12月11日に終了した。調査対象面積は16,878.00㎡で、新設鉄塔1基について発掘調査を実施し、対象地の西北部を8.4㎡、現地表下160㎝まで掘削した。地山は花崗岩質で、遺構、遺物とも認められなかった。他5基については既設鉄塔の建て替えであり、現地踏査の所見では、すでに原地形が大きく改変されていることから、工事時の立会とすることとした。

図12　調査地位置図

写真20　平尾山古墳群98－4近景（東から）

写真21　同掘削状況（東から）

高井田横穴群

98－１次調査

柏原市高井田734、777における共同住宅建築に伴う調査で、９月11日に着手、即日終了した。調査対象面積は1,042.13㎡で、依頼者提供の重機により、対象地の西半を10.0㎡、現地表下50㎝まで掘削した。表土を除去すると地山である凝灰岩層があらわれる。遺構、遺物とも認められなかった。

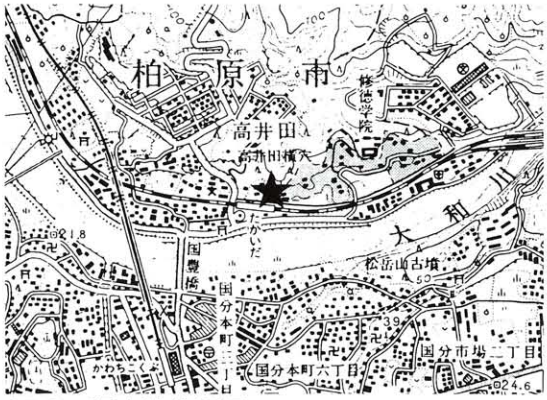

図13　調査地位置図

写真22　高井田横穴群98－１近景（南から）

写真23　同掘削状況（西から）

玉手山遺跡

98－４次調査

柏原市旭ヶ丘1-390-80における住宅建築に伴う調査である。９月８日に着手、９月10日に終了した。調査対象面積は936.63㎡で、東向きの斜面である対象地中央と北半部の2箇所を人力により、合計13.0㎡掘削した。現地表直下が地山となる。対象地の南西隣接地には玉手山７号墳が位置することから、今般の調査で関連遺構、遺物の所在が期待されたが、遺構、遺物とも認められなかった。

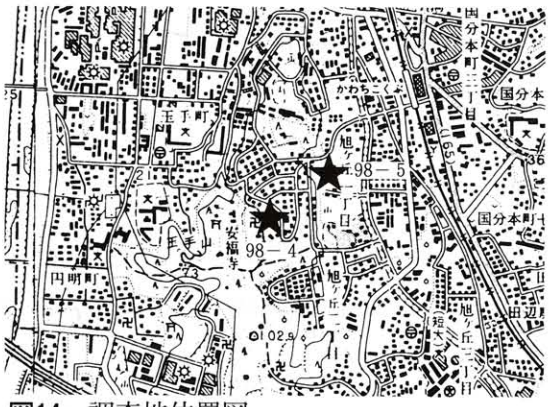

図14　調査地位置図

写真24　玉手山98－４近景（東北から）

写真25　同掘削状況（東から）

98－5次調査

柏原市旭ヶ丘1-508-1他における宅地造成に伴う調査である。9月24日に着手、即日終了した。調査対象面積は498.03㎡で、依頼者提供の重機により、対象地の中央と南を合計4.0㎡、現地表下50㎝まで掘削した。表土下は盛土あるいはすぐ地山で、遺構、遺物とも認められなかった。

写真26　玉手山98－5近景（北から）

写真27　同掘削状況（東から）

報告書抄録

ふりがな	かしわらしいせきぐんはっくつちょうさがいほう
書　　名	柏原市遺跡群発掘調査概報1998年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	柏原市文化財概報
シリーズ番号	1998－Ⅵ
編著者名	石田成年
編集機関	柏原市教育委員会
所 在 地	〒582-8555 大阪府柏原市安堂町１－43　TEL 0729-72-1501(内5128～5130•5134)
発行年月日	1999年３月31日

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本郷	集落				
山ノ井	集落				
平野廃寺	寺院				
大県	集落古墳	古墳	横穴式石室	須恵器、土師器、石棺、銭貨	
大県南廃寺	寺院				
安堂	集落	弥生～奈良	ピット、溝	弥生土器、須恵器、土師器、瓦	
平尾山古墳群	古墳				
高井田横穴群	古墳				
玉手山	集落				

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ほんごう 本　郷	ほんごう 本郷４丁目	27221	HG98-3	34度 35分 08秒	135度 37分 05秒	19980601～ 19980609	1,606㎡	宅地造成
やまのい 山ノ井	やまのい 山ノ井町	27221	YI98-1	34度 35分 48秒	135度 38分 12秒	19980826	392㎡	宅地造成
ひらの 平野廃寺	ひらの 平野２丁目	27221	HNT98-1	34度 35分 28秒	135度 38分 07秒	19980826	1,128㎡	倉庫
おおがた 大　県	おおがた 大県４丁目	27221	OG98-3	34度 35分 08秒	135度 38分 12秒	19980522	488㎡	宅地造成
	ひらの 平野２丁目	27221	OG98-4	34度 35分 21秒	135度 38分 06秒	19980713	362㎡	共同住宅
	ひらの 平野２丁目	27221	OG98-7	34度 35分 27秒	135度 38分 12秒	19981007～ 19981109	1,461㎡	宅地造成
おおがたみなみ 大県南廃寺	おおがた 大県４丁目	27221	OGMT98-1	34度 35分 00秒	135度 38分 11秒	19980616	288㎡	分譲住宅
あんどう 安　堂	あんどう 安堂町	27221	AD98-1	34度 34分 34秒	135度 38分 01秒	19980803～ 19980812	495㎡	共同住宅
ひらおやま 平尾山 古墳群	とうげ 峠	27221	ATK98-3	34度 34分 45秒	135度 40分 43秒	19980807	41㎡	通信柱
	かりんどばた 雁多尾畑	27221	HOK98-4	34度 35分 45秒	135度 38分 58秒	19981207～ 19981211	16,878㎡	鉄塔建替
たかいだ 高井田 横穴群	たかいだ 高井田	27221	TDK98-1	34度 34分 08秒	135度 38分 32秒	19980911	1,043㎡	共同住宅
たまてやま 玉手山	あさひがおか 旭ケ丘１丁目	27221	TY98-4	34度 33分 33秒	135度 38分 01秒	19980908～ 19980910	937㎡	住宅
	あさひがおか 旭ケ丘１丁目	27221	TY98-5	34度 33分 39秒	135度 38分 09秒	19980924	499㎡	宅地造成

柏原市遺跡群発掘調査概報

1998年度

編集・発行　柏原市教育委員会

〒582-8555　大阪府柏原市安堂町1番43号

（0729）72－1501

発行年月日　1999年３月31日

印　　刷　東洋紙業高速印刷株式会社